

# 生徒相互の関わり合いを深めるホームルーム活動の指導方法

— グループワーク・トレーニングを取り入れた活動を通して —

高校教育研究会議

田中 健次<sup>1</sup>

新井 昭浩<sup>2</sup>

富樫 昌克<sup>3</sup>

鈴木 良男<sup>4</sup>

## 要 約

現代の高校生は、様々な社会状況の変化を背景に「人間関係の希薄化」「課題を解決する力の不足」「好ましい人間関係を築けない」といった対人的・集団的な活動が不十分な状況であると指摘されている。さらに、多様化する通信機器の発達により、直接人と話をしたり、直接人と触れ合ったりすることが減少傾向にあるとされている。市立5校で実施したアンケートでは「クラスはあまり居心地がよくない」と感じている生徒が20%を超えているという実態が浮かび上がってきた。

本研究会では、このような高校生の実態を受け、高等学校でも生徒相互の関わりを深めることをねらいとしたホームルーム活動において、グループワーク・トレーニングの効果的な指導方法について研究することにした。また、学校の教育活動の基盤であるホームルームに焦点を当て、クラスの実態に応じたグループワーク・トレーニングを導入し授業実践を行い、資料・情報を収集して指導の展開例と学習指導案及び題材の改善と改良を行うこととした。

検証授業を通して、生徒は関わり合いの中から、情報を正しく聞くことの重要性やお互いに協力することで目的を達成できたことによる達成感や連帯感を実感していた。このグループワーク・トレーニングを、その場限りの活動に終わらせず、様々な場面に応用していかなければならないと感じた。生徒は、自分自身や友達との関係を考えることへの意識が高まった。

研究のキーワード：グループワーク・トレーニング、ホームルーム活動、人間関係

## 目 次

I 主題設定の理由	4 検証授業の実施	134
1 はじめに	(1)川崎市立A高等学校での検証授業	130
2 川崎市立高等学校の実態調査	(2)川崎市立B高等学校での検証授業	131
II 研究の内容	1 グループワーク・トレーニングの必要性	139
		132
2 研究の構想図	III 研究のまとめ	133
3 グループワーク・トレーニングの分類	1 研究から見てきたこと	143
	2 今後の方向性	144
	参考文献、指導助言者	144

<sup>1</sup>川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（長期研究員）

<sup>2</sup>川崎市立川崎高等学校教諭（研究員）

<sup>3</sup>川崎市立商業高等学校教諭（研究員）

<sup>4</sup>川崎市立高津高等学校教諭（研究員）

# I 主題設定の理由

## 1 はじめに

昨年の学校生活の中のことである。帰りのSHRで書類の配付を係の生徒に頼んだところ、書類に書かれている名前を見て、その生徒が「先生、これ誰だっけ?」と言った。新年度が始まり、すでに3ヶ月が過ぎようとしていた時期のことである。同じクラスにしながら、いまだに会話はおろか、その生徒の存在すら、気づいていないかのような発言だった。気づかれていない生徒は決しておとなしい、目立たない生徒ではないのに、これには少々戸惑いを感じながらも叱るわけもいかず、「そんな冷たいこというなよ」と、はぐらかしてはみたものの、これは一体どういうことなのだろうかと、そのSHRが終わって考えてしまった。また、職員室でのことである。教科係らしい生徒が、「えーとー、あの・・・体育のサッカーを教えてくれている・・・サッカーの先生いますか?」と言うのである。本人に悪気があったわけではないのであろう。また、担当の先生の名前を覚えていないのか、覚えようとしなくていいのか、いずれかはわからない。しかし、学校生活において、また社会の中でも、名前を覚える・呼ぶということは、相手とのコミュニケーションをとる際には、最低限のことであると思う。このようなことから、普段の生活の中での、生徒同士の幅の広い交流やコミュニケーションが希薄になっているように感じる。

現代の高校生は、どのようにしたら相手にうまく気持ちを伝えることができるのだろうか、また、どうしたら、うまくコミュニケーションをとることができるのだろうか。

2005年11月から12月にかけてのベネッセ教育研究開発センターの『第1回子ども生活実態調査報告(サンプル数:小学生4,240人、中学生4,550人、高校生6,051人)』<sup>1)</sup>によると、「日ごろ一緒に話したり悩みごとの相談をしたりすることができる友達がいるか」について、現代の高校生は小・中学生よりも友達の人数は増える(中学3年生73.3%→高校1年生81.5%)。しかし、メールでのコミュニケーションが拡大するためか、高校生になると、「友達と一緒にいたい」などの関係の凝集傾向は弱まり(中学3年生50.3%→高校1年生44.1%)、減少しつつあると指摘している。これは、多用化する携帯電話(高校生の所有率92.8%)やパソコン等の通信機器の普及により、生活自体は便利で快適になっている反面、生徒たちの交流関係に歪みが生じたり、直接人と会って話をしたり、触れ合ったりすることが少なくなっていることが、原因の一つと考えられる。また、話をしたり遊んだりする友達は増えても、悩み事を相談できる友達が「いない」と答えた生徒の割合は高校生では10.8%いることがわかった。

『NHK中学生・高校生の生活と意識調査(2002年調査)』<sup>2)</sup>では、「悩みごとや心配ごとを相談するとしたら主に誰に相談するか」という質問では、「友達」をあげた中高生が59%と多かった(2番目は「母親」で21%)が、この質問で20年前と比較してみると「友達」と答えた人数は67%から59%へと減少している。友達は多くいて、大切な存在であるには違いないが、悩みを打ち明けるなどはあまりしない、やや距離を置いた関係へと、付き合い方の質が変わってきているとも考えられる。

2008年1月、文部科学省中央教育審議会の「学習指導要領等の改善についての答申」<sup>3)</sup>では、子どもたちの現状と課題で、友達や仲間のことで悩む子どもが増えているなど人間関係の形成が困難、

<sup>1)</sup> 『第1回子ども生活実態基本調査報告書』ベネッセ教育研究開発センター 2005年

<sup>2)</sup> 『NHK中学生・高校生の生活と意識調査』NHK放送文化研究編 2003年 p.105

<sup>3)</sup> 「学習指導要領等の改善について(答申)」文部科学省中央教育審議会 2008年1月

かつ不得意になっているとの指摘もある。さらに、生徒たちを取り巻く環境は、情報化や都市化、少子高齢化等の社会状況の変化を背景に人間関係の希薄化、話し合っ解決する力の不足、好ましい人間関係を築けないことや望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分な状況も見られるとし、それらに係る力を、実践を通して高めるための体験活動や話し合い活動、集団による活動を一層重視するとしている。特に体験活動については、体験を通して感じたり、気づいたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表しあったりする活動を重視するとしている。

2008年12月に示された「高等学校新学習指導要領案」<sup>4)</sup>の第1章総則第5款教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項の5の(3)においては、「教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。」とあり、生徒相互の人間関係の大切さや重要性を指導することが求められている。さらに、第5章特別活動第2内容のホームルーム活動においては、「自己及び他者の個性の理解と尊重、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」を指導することが求められている。

## 2 川崎市立高等学校の実態調査

2008年7月に、川崎市の市立5高等学校(全日制課程)第2学年の生徒1,107名に対して、「友達関係」「クラスの様子」などについての内容でアンケートを実施した。

図1の問1「あなたは学校生活が充実していますか」に対しては、学校生活が「充実している」と「普通」の答えを合わせると87%の生徒が「ほぼ充実している」と答えたが、「充実していない」と答えた生徒が、13%いる

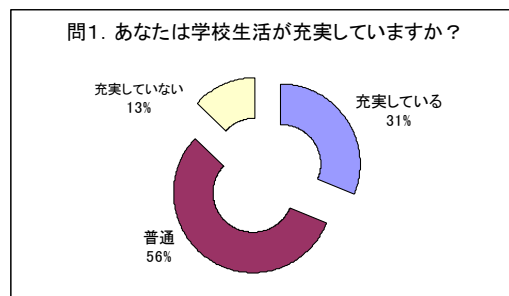


図1 学校生活に関する質問

ことがわかった。これは人数にすると144名にも及ぶことになる。アンケート結果からは、学校間の格差がほとんど無いことから考えると、原因がその学校に起因するものではなく、各校に平均すると

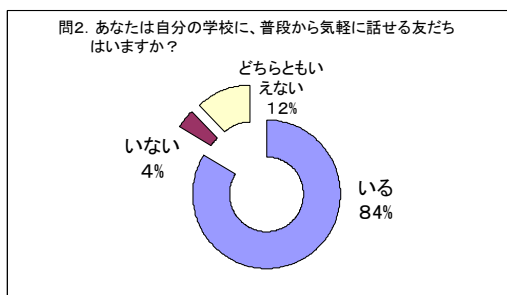


図2 友だちに関する質問その1

1校当たり、およそ30名の生徒が、学校生活に対して充実感をもてずに生活していると見られる。その理由としては、複雑な人間関係、不本意入学などの様々な要因が考えられるが、多くは生活面での友達とのコミュニケーション不足もあると考える。その根拠は、図2の問2「あなたは自分の学校に、普段から気軽に話すことができる友だちはいますか」の回答から読み取ることができる。図2の問2で、友達について聞いてみたところ、自分の学校に普段から気軽に話すことができる友達が「いる」と答えた生徒は84%に達したが、「いない」と「どちらともいえない」を合わせると16%にもなった。このことから、学校生活が充実していないと考える生徒の理由の一つに、人間関係がうまくとれないということも考えられる。図2の問2の回答の「いない」、「どちらともいえない」と答えた生徒に、図3の問4「なぜ、気軽に話すことができる友だちがいない、どちらともいえないのだと思いますか」と聞いたところ、「話をするのが苦手」、「関わりあうことが面倒」、「一人でいる方がよい」と答えたこれ

友達について聞いてみたところ、自分の学校に普段から気軽に話すことができる友達が「いる」と答えた生徒は84%に達したが、「いない」と「どちらともいえない」を合わせると16%にもなった。このことから、学校生活が充実していないと考える生徒の理由の一つに、人間関係がうまくとれないということも考えられる。図2の問2の回答の「いない」、「どちらともいえない」と答えた生徒に、図3の問4「なぜ、気軽に話すことができる友だちがいない、どちらともいえないのだと思いますか」と聞いたところ、「話をするのが苦手」、「関わりあうことが面倒」、「一人でいる方がよい」と答えたこれ

4) 「高等学校学習指導要領案」文部科学省 2008年12月

らの生徒を合わせると 57% になり、人数にするとおよそ 100 名になった。人との会話が苦手だったり、人と触れ合うことが面倒だったりというように、人と関わることをしようしない生徒たちの姿が浮かびあがってくる。

図 4 の問 13 では、ホームルームについて聞いてみた。「あなたにとってホームルームとは、どんな存在ですか」という問いに対して、「あまり居心地がよくない」と答えた

生徒は 22% になり、人数にすると、224 人に及んだ。1 クラスの人数を 40 人とする、およそ 8 人の生徒はクラスでの居心地をあまりよくないと感じているようである。このことも、学校生活が充実し

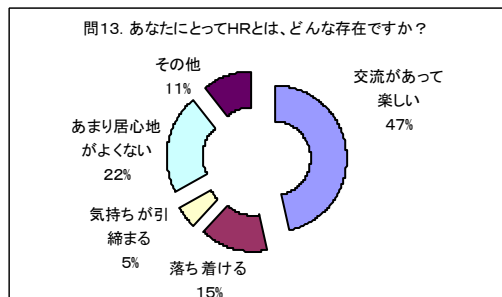


図4 ホームルームについての質問

ていないと答えた生徒の一つの要因であるだろう。以上のことから本研究会議では、学校生活の基本であるホームルーム活動にグループワーク・トレーニングを取り入れ、そこで生徒相互の関わり合いを深めさせることにより、さまざまなホームルーム活動や他の活動へと発展させることをねらいとし、ホームルームにおいて実施できるグループワーク・トレーニングの効果を検証し、3年間を見通した指導の

展開例や学習指導案を作成することとした。以上のことを踏まえ、本研究会議の研究主題・副題を次のように設定した。

研究主題	生徒相互の関わり合いを深めるホームルーム活動の指導方法
	— グループワーク・トレーニングを取り入れた活動を通して —

## II 研究の内容

### 1 グループワーク・トレーニングの必要性<sup>5)</sup>

学校教育の中には様々なグループワークがある。クラス、班、各係、委員会、部活動など、生徒たちは学校生活の中で多数のグループに所属し、活動している。また、教師は集団の質を向上させるための一つ的手段として、小グループを設定し、一人一人に役割を分担させて存在意識をもたせたり、一人一人の個性を輝かせる場を設定したり、小グループから生まれる自主的活動を引き出そうと試みたりしている。

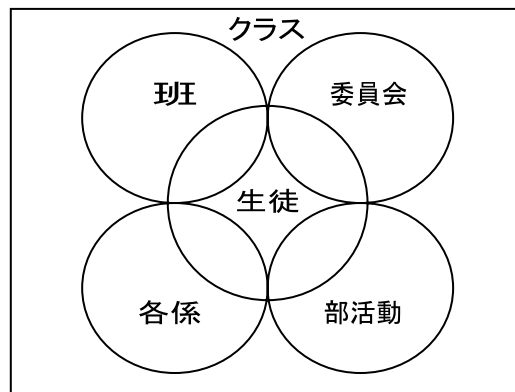


図5 生徒とグループの相関図

しかし、本当の意味でグループワーク（活動）が活性化し、グループとして機能が果たされているのだろうか。形の上ではグループを形成していても、中には意図的に形成されたグループではないために、実が伴っていないグループがあるのも、現状ではないだろうか。グループ活動を活性化させるには、パティシペイターシップ<sup>6)</sup>が発揮されなければならない。現在ではグループ活動が多岐にわたり、不明確であったりして、生徒一人一人をフォローする

<sup>5)</sup> 坂野公信『学校グループワーク・トレーニング』遊戯社 1989年 p p. 120-121

<sup>6)</sup> パティシペイターシップ・・・自ら進んで積極的に参加し、責任を分担する協働者の意味

ことは容易ではない。直接的には、グループの目標達成には結びつかないが、別の場面でグループワークとしてのトレーニングを実施し、パティシペイターシップを養っていくことは、有効な方法であると思う。グループワーク・トレーニングを通して、自ら気づいたことは、日常の学校生活やグループ活動の中にも一般化され、生かされていくからである。このような理由から、グループワーク・トレーニングを積極的に生かし、かつ効果的なものにしていきたいと考えている。

活動のプロセスとしては、「実習→ふりかえり→分析→成長」の段階を踏む。中でも「ふりかえり」が最も重要であると考え。なぜなら、「ふりかえる」ことにより、実践中に自分自身が体験したことを自身で分析し、次の場面で生かすことができるからである。人間関係体験をすることにより、人間関係を作るきっかけや再構築、再認識をするには有効であると考え。

## 2 研究の構想図

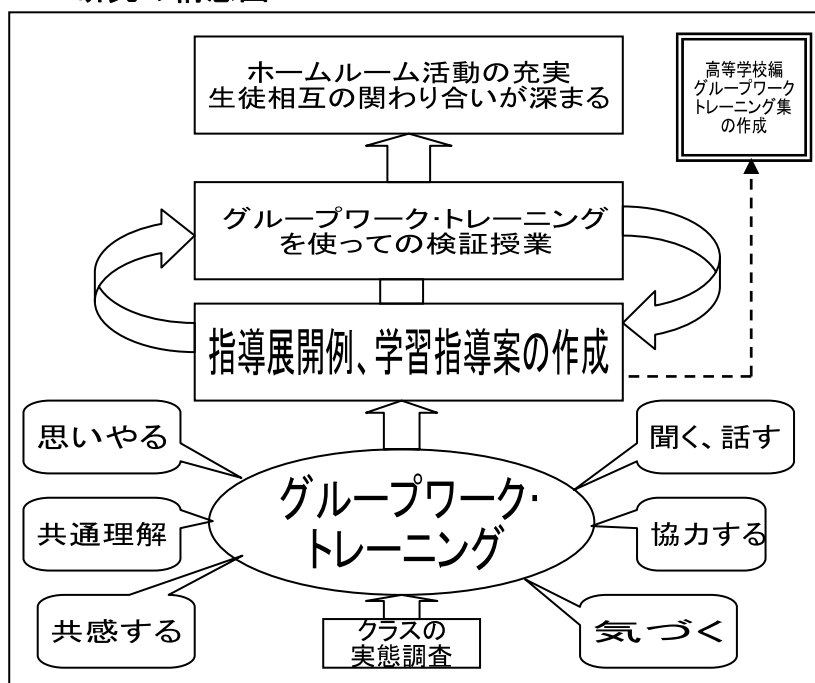


図6 研究の構想図

グループワーク・トレーニングを実践するにあたり、まずは事前にアンケートを実施し、そのクラス集団の実態を把握しておくことが大切となる。そのクラスの実態を把握した上で、どのようなグループワーク・トレーニングを実施するかを決定する。

グループワーク・トレーニングを実施することにより、得られる効果として大きなものには「聞くこと・話すこと」、「思いやること」、「協力すること」、「共通理解を得ること」、「共感すること」、「気づくこと」などがある。これらの得られる効果を

含んだ題材を使い、それを事前に検討・協議し、対象クラスで検証授業を行い、授業内での生徒の活動の見取りとそこから得られた結果（ワークシートやふりかえりシート）をもとに、さらに指導展開例と学習指導案の改善と作成を行う。それが、ホームルーム活動の充実につながり、生徒相互の関わり合いが深まるホームルーム活動へと発展していくものと考え。

## 3 グループワーク・トレーニングの分類

教師がグループワーク・トレーニングを実施するタイミングは、クラスの状況を見て、学年の始め、学期始め、各行事の前をきっかけに実施するとよい。その「ねらい」に対して、どのグループワーク・トレーニングの題材を実施すればよいかを分類して整理することにより、容易に題材を選ぶことができる。活動内容の説明を簡潔に記載しておくことにより、すぐにどのような活動かがわかり、気軽にグループワーク・トレーニングを実施できるものであると思う。また、他の題材との比較もできたり、組み合わせたりすることができる。現時点での「ねらいとすること」は6項目に分類をしているが、基本的にはどの題材においても、すべての「ねらい」にあてはまるものであると思う。

## 4 検証授業の実施

川崎市立A・B高等学校でグループワーク・トレーニングを使つての検証授業を実施した。

A高等学校では、「正しく聞くことの重要性に気づく」と「協力することの大切さを知る」というねらいで実施し、B高等学校では、「正確に情報を相手に伝える」と「協力して課題を解決することの大切さを知る」というねらいで授業を実施し、指導の展開や学習指導案について検証することにした。

### (1) 川崎市立A高等学校での検証授業

平成20年7月実施

川崎市立A高等学校 1年B組 32名(男子16名、女子16名)

#### ①事前アンケートの実施

アンケートの内容はクラスでの友だち関係やクラスについての質問をした。

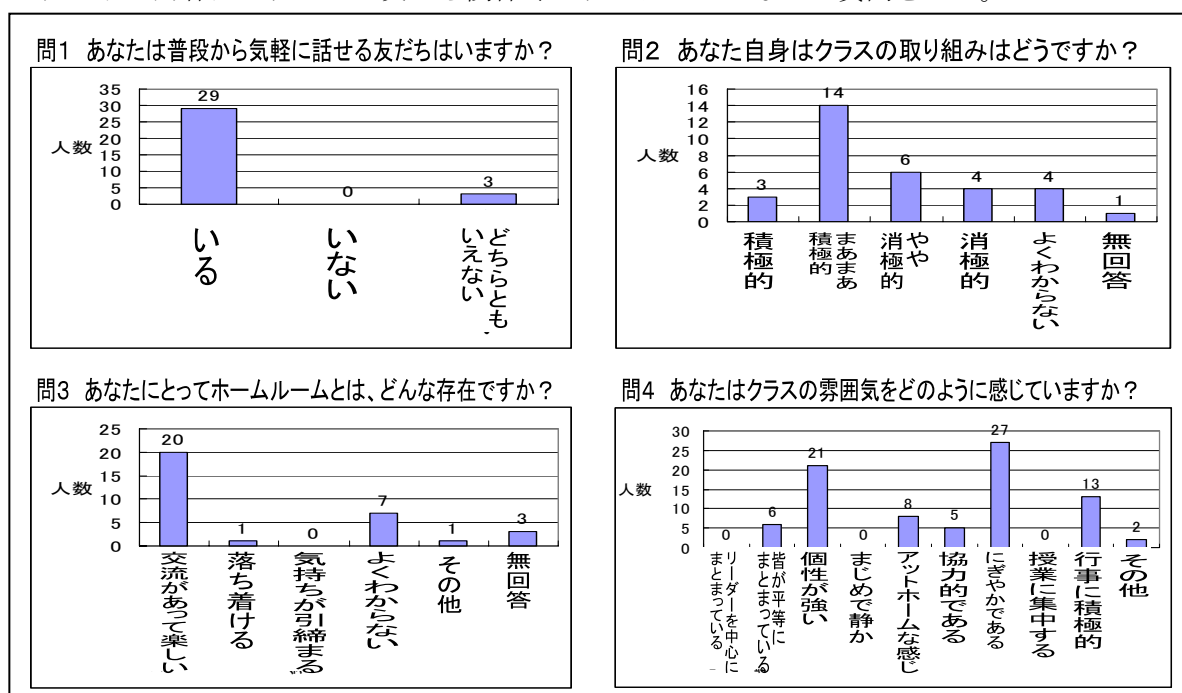


図7 アンケート結果(一部抜粋)

<分析> 個性が強く、にぎやかで明るく、仲が良いとの結果が得られたが授業に集中できないなど、反面、騒がしいまとまりの無いクラスと受け取られてしまう傾向があるだろう。

<クラス担任の学級観>

「いろいろな行事を通して、新しい友達関係ができつつある。しかし、その友達関係を保つために自分をつくり、表面的な付き合いをしているところも見られる。また、家から遊び道具を持ってくるなどの幼い面のある生徒もいる。男女分け隔てなく活動ができ、明るいクラスである。」

事前のアンケート結果とクラス担任が思うクラスの学級観を考慮し、研究会議において協議・議論し、検証授業の「ねらい」とグループワーク・トレーニングの「題材」を決定した。

#### ②ねらい

「授業に集中できず、騒がしそうである」という点に着目し、「人の話を聞くことができるようにする」という観点から、「正しく聞くことの重要性に気づく」ということ。

「まとまり」に欠けるという観点から、「協力することの大切さを知る」というねらいにした。

**正しく聞くことの重要性に気づき、協力の大切さを知る**

### ③題材

題材名「お店はどこだ？」<sup>7)</sup>

空欄になっているお店の白地図に各自が持っている「情報カード」をもとに、14箇所のお店の位置を口頭の情報交換のみで、探すというものである。グループ内での意見や情報をもとに協力して課題を解決する。

既存のグループワーク・トレーニングを高校生に適するように研究会議において協議し、改良したものを実施した。20枚ある情報カードの内、キーワードに近い2枚を抜き、難易度を上げることにより、解答を予測したり推理したりすることが多くなり、意見交換を活発にさせる。また、授業へ集中させることを考慮し、お店の名称を現代の高校生に親しみのあるものにアレンジをした。(例：喫茶店→ファミレス、スーパーマーケット→コンビニ等) 以上2つの点を改良した。

### ④活動内容

題材名	「お店はどこだ？」
活動形態	5人または6人のグループ活動（機械的に名簿順のグループ・男女混合）
所要時間	1時間（50分）
活動概要	グループの生徒がそれぞれに与えられた情報を元に、口頭で情報を伝達し、その情報を共有することによって、ある商店街の地図を完成させる。
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白地図（A3版画用紙）・・・1グループ1枚</li> <li>・ お店カード・・・1グループ1セット（1セット14枚）</li> <li>・ 情報カード・・・1グループ1セット（1セット20枚）</li> <li>・ ふりかえりシート・・・一人1枚</li> <li>・ 掲示用の白地図（模造紙大）・・・1枚（教師用）</li> <li>・ 掲示用のお店カード・・・1セット（教師用）</li> </ul>
活動内容	<p>・ 主な活動</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>道路を挟んで14のお店がある。 配付された「情報カード」をもとに、みんなで情報や意見を出し合い、グループに配付された白地図に「お店カード」を並べていく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制限時間内で解答が出たら答え合わせをする、間違っていたら、制限時間内でやり直しをする。</li> <li>・ 制限時間になったら、正解の発表をする（黒板に掲示）。</li> <li>・ ふりかえりシートへ記入する。</li> <li>・ グループで感想や反省をまとめ、発表する。</li> </ul>
指導上の留意点及び活動上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話での情報伝達とすることを徹底させる。</li> <li>・ 他人のカードを見たり、他のグループの情報を聞いたりしてはいけない。</li> <li>・ グループの意見や情報、話し合い活動を活発にしたりするように助言する。</li> <li>・ 机間指導をし、話し合い活動の状況を把握し、生徒の活動の様子を記録する。</li> </ul>

<sup>7)</sup> 坂野公信『学校グループワーク・トレーニング』遊戯社 1989年 pp.21-26

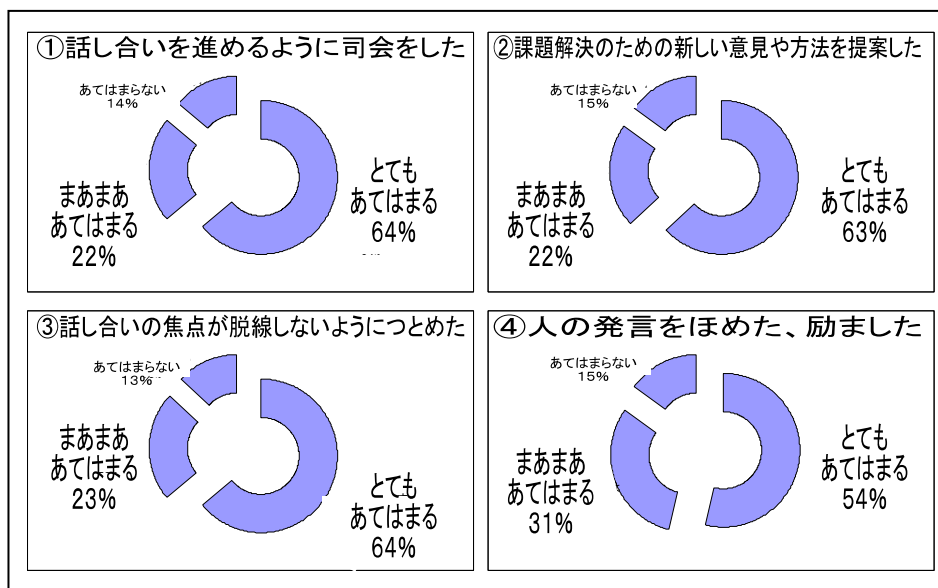
⑤学習指導案

	学習活動・指導の内容		指導上の留意点
	生徒の活動	教師の働きかけ	
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいと授業の流れの説明を聞く</li> <li>・概要と課題の説明を聞く</li> <li>・ルールの説明を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいと授業の流れを確認する</li> <li>・概要と課題の説明をする</li> <li>・ルールの説明をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいやルールを徹底させるために口頭のみだけではなく、具体的に白地図等を掲示して説明する</li> <li>・最初、班長は決めない（自然にグループを引っ張る生徒が出てくるようにする）</li> </ul>
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白地図とお店カードを受け取る ①白地図と②お店カード</li> <li>・情報カードを受け取る（18枚） ③情報カード</li> <li>・1人3～4枚のカードを持つ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">＜ねらい＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく聞くことの重要性に気づく</li> <li>・協力することの大切さを知る</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">*グループワークの展開</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">＜活動のポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に意見や情報を出し合う</li> <li>・仲間の意見や情報に耳を傾ける</li> <li>・協力して課題の解決をする</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早くできたグループは先に答え合わせをする、間違っていた場合にはやり直す 制限時間は15分程</li> <li>④正解用紙</li> <li>・正解の確認をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白地図とお店カード配付する</li> <li>・情報カード18枚を配付する（情報カードは全部で20枚）</li> <li>・配付後、順次始める</li> <li>・活発な意見や情報の出し合いになるように、助言する</li> <li>・話し合いに参加できていない生徒に助言する</li> <li>・答えが出たグループの確認、答え合わせをし、間違っている場合はやり直しをさせる</li> <li>・制限時間は15分くらいを目安とし状況により延長する</li> <li>・正解の発表、掲示をする（正解用紙を黒板に貼る）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争ではないことを伝え徹底させる</li> <li>・枚数などを確認させる</li> <li>・情報カードは裏にして配付することを伝える</li> </ul> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">＜難易度をあげる＞</p> <p style="text-align: center;">2枚のキーワードとなる情報カードを抜いておく</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をし、進行状況をつかむ</li> <li>・友達の意見などに耳を傾けさせる</li> <li>・中心になって進めている生徒がいるか観察する</li> <li>・未完成のグループには、終了5分前になったら19番目の情報カードを配る、2分前に20番目の情報カードを配る</li> </ul>
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を振り返る（ふりかえりシートへの記入） ⑤ふりかえりシート</li> <li>・活動の感想を個人で発表する（苦勞した点や良かったところ等）</li> <li>・先生の話聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートへの記入を指示する</li> <li>・時間があればグループの感想を出し合いまとめさせる</li> <li>・聞くことの難しさや協力の大切さに気づかせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返って評価させるために、ふりかえりシートを配る（自分自身だけではなく、グループのメンバーの行動や評価すべき点を具体的に記入させる）</li> </ul>



### ⑥検証授業を振り返って

生徒のふりかえりシートから、各グループ内でのそれぞれにどんな役割をしていたかについて聞いてみたところ、図8のような結果が得られた。

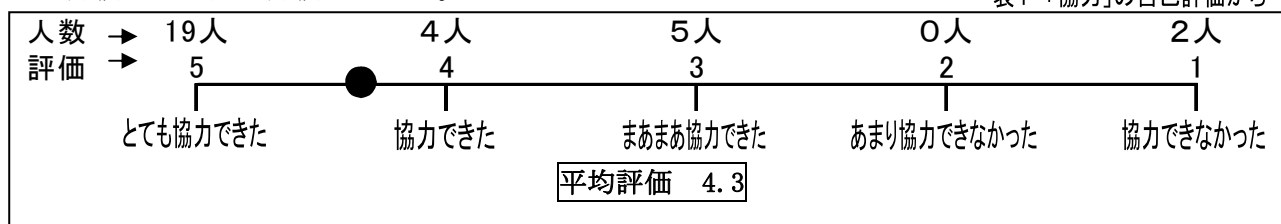


この結果から、実に8割以上の生徒が、自分を含めたグループの生徒に対して図8の①から④の何らかの役割があったと答えている。このことから、グループ内において生徒相互の意見交換が活発にされていたことが、考えられる。

図8 「役割」についての相互評価のグラフ

生徒のふりかえりシートの中で表1の「グループ内の協力は、どれくらいうまくいったと思いますか」という質問では、5段階評価で「5」の「とても協力できた」の一番よい評価をした生徒が19人いて、この自己評価を平均すると「4.3」の評価となった。この評価は、「それぞれの役割」についての評価とほぼ同じ評価となった。

表1 「協力」の自己評価から



今回の活動について「がんばったこと」、「感じたこと」、「わかったこと」などをまとめると、表2にあるように「～ができた」、「～わかった」などのよい印象の感想が多く述べられていた。ねらいであった「正しく聞くことの重要性に気づく」ということと「協力することの大切さを知る」という点においては、生徒たちは実感できたのではないかと思う。

表2 生徒のふりかえりから(一部抜粋)

＜質問1＞自分が一番頑張ったことは何ですか？

- ・情報をなるべくわかりやすくみんなに伝えるようにした
- ・声をかけあった
- ・一生懸命発言しました
- ・情報をあきらめずに言った
- ・みんなの意見をしっかりと聞くこと

＜質問2＞自分が足りなかったことはありましたか？

- ・発言が足りなかった
- ・一つのことにとらわれてしまい、新しいことが入ってこなかった

- ・注意が足りなかった
  - ・あまりまとめられなかった
- ＜質問3＞今日のグループで感じたことは何ですか？
- ・みんな協力していてすごくよかった
  - ・意見を伝え合うことの大切さを感じた
  - ・みんなとても笑っていて楽しかった
  - ・意外と盛り上がった
  - ・とても協力しようとしていた

＜質問4＞今日のグループ活動を通して気づいたこと、得たことは何ですか？

- ・人は難しいことでも、協力すれば解決することができることがわかった
- ・注意力と聞く能力が必要だということがわかった
- ・言葉で言うのは大変だけど完成したときには嬉しかった
- ・たとえ遅くなってもゆっくりと正確に相手の意見を聞いてやるのが大切だと感じた
- ・自分が足りないところをみんなで協力することで補えることがわかった
- ・協力することは大切なんだと思った

上記の感想の他に「グループって、めんどくさい」などの否定的な意見もあったが、今回のグループワーク・トレーニングでは、約9割近くの生徒は肯定的にとらえていて、この授業のねらいである「正しく聞くこと、協力すること」は概ね達成できたと思われる。

表3 教師の「観察シート」から(一部抜粋)

教師の「観察シート」から
・当初予想した以上に、各グループとも活発な意見や発言が出ていた
・時系列で観察するとグループ内で、リーダーシップをとって話を進める生徒が変わっていく変容が見られた。(活動が始まった当初のリーダー的生徒と活動が進んでいってから別のリーダー的生徒が出てきた)
・代表者が自主的に出るということは、前向きな姿勢の表れである
・男女分け隔てなく情報交換をしていた
・論理的思考が高い生徒が話し合いの中心になっていた(リーダー的立場になってきた)
・話し合いの度合いでグループでの活動時間に大きな差が出た

また表3の教師の「観察シート」の感想の中からも、当初予想していた以上に授業が活発に行われていたとの、感想が多く出されていた。グループをまとめる生徒の出現が、このグループワーク・トレーニングのねらいを達成する上での一つのポイントとなっていることもわかった。

明るく活発な生徒が多いクラスでの授業だったが、生き生きとした学びの姿を見取ることができた。話し合い活動ということで、まとまりの面で少々不安な場面もあったが、リーダーの出現により、どのグループもよい方向へと話し合い活動が向かい、それぞれが自ら進んで積極的に話し合い活動に参加し、ねらいを達成することができていた。題材が終了することに時間がかかったグループにも、リーダーの出現はあったが、そのグループのリーダーはまとめたり、引っ張っていったりする力が弱く、その時にどのようにして周囲の生徒が関わり合うかということも、このグループワーク・トレーニングを実施していく上での重要な要素ではないかと感じた。

## (2) 川崎市立B高等学校での検証授業

平成20年10月実施

川崎市立B高等学校 2年C組 40名 (男子16名、女子24名)

### ①事前アンケートの実施

アンケートの内容は修学旅行に関すること、友だち関係とクラスについてなどの質問をした。

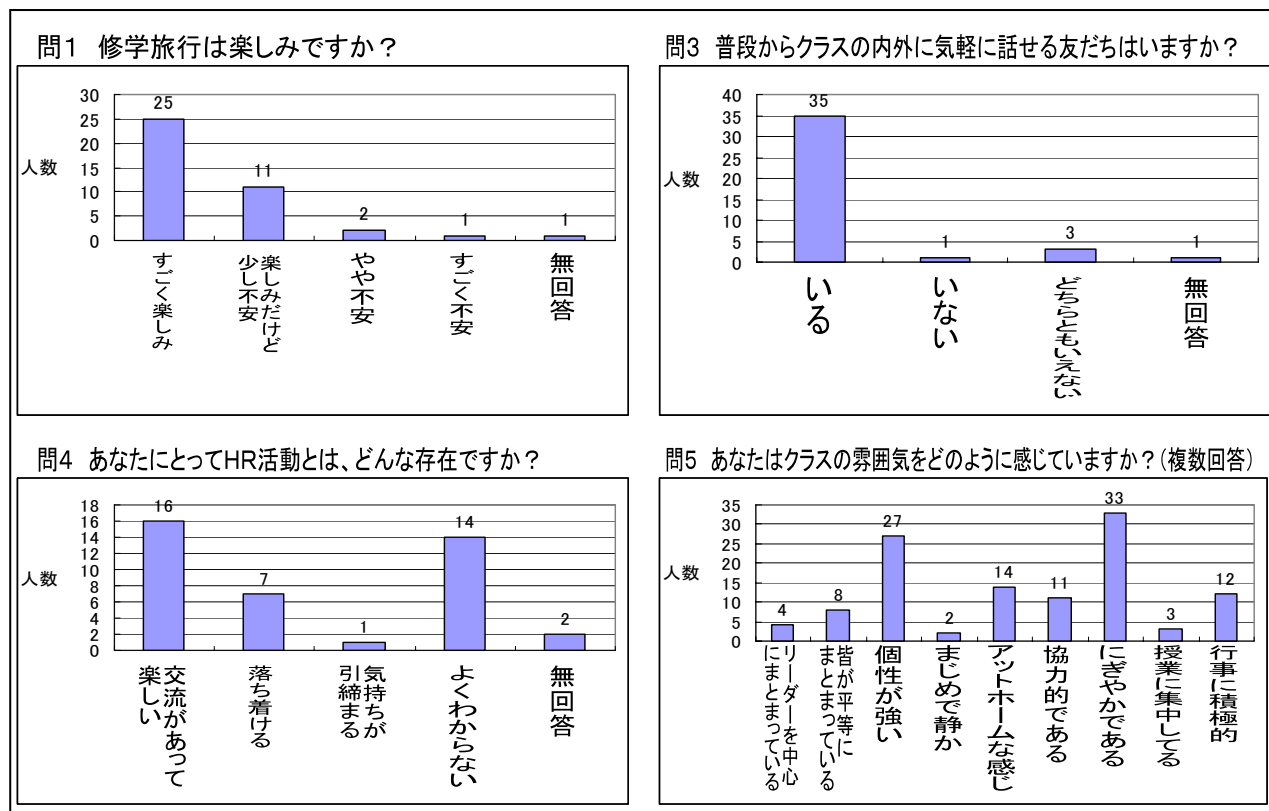


図9 アンケート結果(一部抜粋)

<分析> クラスの雰囲気は、個性の強い生徒が多く、にぎやかであるといえる。しかし、ホームルームの存在については「よくわからない」という生徒(14人、35%)が比較的多く、まだクラスに馴染めない生徒、クラスに自分のいる場所がわからない生徒もいるようである。

<クラス担任の学級観>

「明るく活動的なクラスである。男子は少し無気力な印象を受けるが、女子は活発な生徒が多い。学級活動においては、おとなしいクラスメイトにも積極的に声をかけるなどをして、よい雰囲気をみんなで作ろうとするとところが見られる。」

事前のアンケート結果とクラス担任の学級観と修学旅行の事前の人間関係づくりということを考慮し、研究会議において協議・議論し、検証授業の「ねらい」と「題材」を決定した。

### ②ねらい

2週間後に修学旅行を控え、生活班として新しく班を編成した。グループ編成は、修学旅行の生活班なので男女別の班とした。

4日間の生活班での班行動を円滑によりよくするための観点から「正確に情報を相手に伝える」ということと、「協力して課題を解決することの大切さを知る」というねらいにした。

正確に情報を相手に伝える、協力して課題を解決することの大切さを知る

### ③題材

題材名「ゼッケンナンバーは？」<sup>8)</sup> + 「手動式コピー機！」<sup>9)</sup>

「ゼッケンナンバーは？」は、ばらばらになっている一連の絵をつなぎ合わせ、描かれている絵（走者）の順番を完成させるものである。高校生のコミュニケーション・スキルのレベルを考慮し、もう一つの題材を合わせたものを実施した。それは「手動式コピー機！」である。指定された見本の絵を描き写し、その描き写した情報をメンバーに伝えるというものである。

絵を描くことで、情報を得て、その情報を基に課題を解決していく。

既存の題材を高校生に適するように研究会議において協議し、検討したものを実施した。グループワーク・トレーニングの題材を2つ合わせたものを実施した（難易度をあげる）。描かれている絵の中に修学旅行にちなんだものを描く（興味を持たせる）。以上2点を改善した。

### ④活動内容

題材名	「ゼッケンナンバーは？」 + 「手動式コピー機！」
活動形態	8人のグループ活動（修学旅行の生活班・男女別）
所要時間	1時間（50分）
活動概要	グループの生徒がそれぞれで得た情報（絵）を元に、その内容を伝達し、その情報を共有することによって、一連の絵（走者）の順番を完成させる。
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白紙の用紙（B6サイズ）・・・1人1枚</li> <li>・ 掲示用の絵（B5サイズ）・・・7種類を各3～4枚ずつ</li> <li>・ 答え貼り付け用紙（A3サイズの画用紙）・・・1グループ1枚</li> <li>・ ふりかえりシート・・・一人1枚</li> <li>・ 筆記用具・・・各自用意</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な内容</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それぞれが描き写した絵をつなげると、7人のランナーが走っている絵になる。どのランナーがどの位置を走っているかを明らかにし、全てのランナーの順番をゼッケンナンバーで答える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のグループの情報を見てはいけない。</li> <li>・ 情報は自分の席に戻ってから描く。何度見に行ってもよい。</li> <li>・ 教師は机間指導をして、生徒の活動の様子を記録する。</li> <li>・ 制限時間内にできたら答え合わせをする、間違っていたら、すぐにやり直す。</li> <li>・ 制限時間になったら、正解の発表をする（黒板に掲示か正解用紙を配付）。</li> <li>・ 完成した絵をA3サイズ画用紙に並べて貼り付ける。</li> <li>・ ふりかえりシートへの記入、グループで感想や反省をまとめて発表する。</li> </ul>
指導上の留意点及び活動上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで情報を積極的に出し合うことを助言する。</li> <li>・ 意見や情報をまとめたり、話し合い活動を活発にしたりするように助言する。</li> <li>・ 話し合い活動の進行状況を把握し、生徒の活動の様子を観察する。</li> </ul>

<sup>8)</sup> 坂野公信『協力すれば何かが変わる』遊戯社 1994年 pp. 42-44

<sup>9)</sup> 坂野公信『学校グループワーク・トレーニング』遊戯社 1989年 pp. 59-61

⑤学習指導案

	学習活動・指導の内容		指導上の留意点	観察記録
	生徒の活動	教師の働きかけ		
活動の開始 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいと授業の流れの説明を聞く</li> <li>・概要、課題の説明を聞く</li> <li>・ルールの説明を聞く</li> <li>・絵を写すための用紙を受取る</li> </ul> ①B6サイズの内紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいと授業の流れを確認する</li> <li>・概要、課題の説明をする</li> <li>・ルールの説明をする</li> <li>・絵を写すための用紙を配付する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいやルールを徹底させるために具体的に例図等で説明する</li> <li>・最初、リーダーは決めないで始める</li> </ul> <難易度をあげる> 2つのグループワーク・トレーニングを合わせて実施する	
活動の展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何番の絵を担当するか決める</li> <li>・絵を見に行く</li> <li>・見てきた絵を用紙に書き写す(手動式コピー機)</li> <li>・協力して課題の解決をする</li> <li>・絵をつなぎ合わせていく</li> <li>・協力して答えを出す</li> <li>・制限時間は15~20分</li> </ul> <活動のポイント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に情報を得て、伝える</li> <li>・自由に意見や情報を出し合う</li> </ul> ③正解用紙と解答貼り付け用紙	<ねらい> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に情報を相手に伝える</li> <li>・協力して課題を解決することの大切さを知る</li> </ul> ②情報の絵を貼付け グループワークの展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当の番号どの絵を見てもよい</li> <li>・描き写すポイントになるところを指示する</li> <li>・机間指導をし、進行状況をつかむ</li> <li>・活発な意見や情報を出させるように助言する</li> </ul> ③正解用紙と解答貼り付け用紙 <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えが出たグループはその場で確認をする</li> <li>・正解の発表をする</li> <li>・状況により時間延長する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8人班のところは2人で1枚の絵の担当か、まとめ役を1人出させる</li> <li>・壁に貼り付ける際には絵を覆い隠す大きさの番号を書いた用紙を被せる</li> <li>・一斉に始めるが慌てないことを注意する</li> <li>・友達の見解などに耳を傾けさせる</li> <li>・中心で進めている生徒がいるか観察する</li> <li>・制限時間になったら一斉に正解用紙を配付する</li> </ul>	
活動のまとめ 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を振り返る</li> <li>・ふりかえりシートへの記入</li> <li>・ふりかえりをグループの代表、個人が発表する</li> <li>・先生の話聞く</li> </ul> ④ふりかえりシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりシートの記入を指示</li> <li>・グループの感想を出し合い、まとめさせる</li> <li>・伝えることの難しさや協力の大切さに気づかせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返って評価させる</li> <li>・まとめをさせる</li> <li>・貼付けた絵の回収をする</li> </ul>	

### ⑥ 検証授業を振り返って

生徒のふりかえりシートから、各グループ内で、それぞれにどんな役割をしていたかについて聞いてみたところ、図10のような結果が得られた。

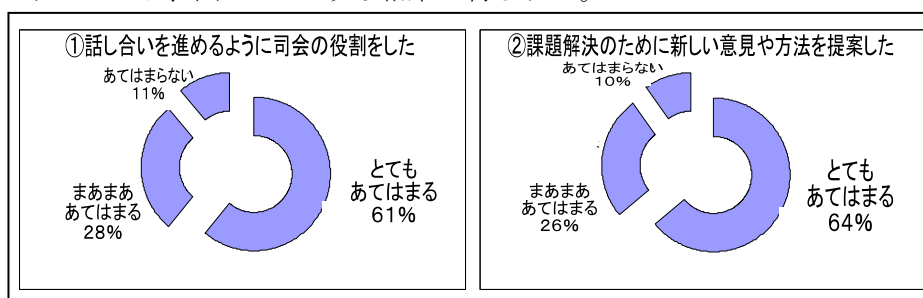


図10 「役割」についての相互評価のグラフ

この結果から、第2回の検証授業においても、実に8割以上の生徒が、自分を含めたグループの生徒に対して図10のように、何らかの役割があったと答えている。このこ

とからグループ内において生徒相互で仲間の意見をよく聞いていたことと思われる。

生徒のふりかえりシートの中で、「グループ内の協力は、どれくらいうまくいったと思いますか」という質問では、5段階評価で「5」の「とても協力できた」の一番良い評価をした生徒が全体の半数の20人いて、この自己評価を平均すると「4.4」の評価となった。生徒たちは、かなり高いレベルの評価をしているといえる。

今回の活動で、「がんばったこと」、「わかったこと」、「気づいたこと」などをまとめると、第1回目の検証授業と同様に、表4にもあるように「～ができた」、「～に気づいた」などの感想が多く述べられていた。

表4 ふりかえりシートから(一部抜粋)

一番がんばった(心がけた)ことは、どんなことですか？	気づいたこと、得たことはどんなことですか？
・自分の伝えたいことを正確に伝えた	・みんなで力をあわせることは大切だと気づいた
・絵の特徴をがんばって表現した	・一生懸命に力をあわせてがんばれた
・みんなの力になれるように頑張った	・もっと仲良くなれたような気がする
・みんなの意見をしっかり聞いた	・協力して得た達成感
・早く正確に完成させるようにみんなで意見を出すようにした	・団結力が深まったので班活動が楽しみ
・みんながわかりやすいように説明した	・役割がちゃんとできていた

上記の感想のほかに「集中力がなかった」「積極的な人とそうでない人がいた」などの意見もあったが、第2回目のグループワーク・トレーニングでは、約9割前後の生徒は肯定的な意見であった。教師の授業観察や生徒のふりかえりシートから判断し、第2回目の検証授業のグループワーク・トレーニングの「ねらい」も第1回の検証授業同様、概ね達成できたと思う。生徒は、伝えることの難しさや協力することの大切さを実感することで、自分自身へのふりかえりができていたようである。

また、教師の授業観察後の研究協議においても、授業(活動)が活発に行われていて、協力する姿勢に好感が持てたとの感想が多く出されていた。また、グループをまとめる生徒が、このグループワーク・トレーニングでも協力してねらいを達成する上での一つのポイントとなることも再確認した。

第1回と第2回の検証授業に共通して出てきたことでは、グループにおいては中心となる生徒が必ず出てくるということである。あえて活動前にはリーダーを決めない状況で始めたが、生徒たちの中からリーダーが自然と出てきた。グループワーク・トレーニングにおいては「リーダーの養成」ということにおいても、大いに効果があることがわかった。

### ⑦事後アンケート（11月下旬実施）

前回の第1回目の検証授業では、事後アンケートは実施していないが、今回の第2回目の検証授業では、具体的な行事（修学旅行）に向けたグループワーク・トレーニングということもあり、1回だけの検証授業ではあったが、効果をみるため修学旅行後に事後アンケートを実施した。

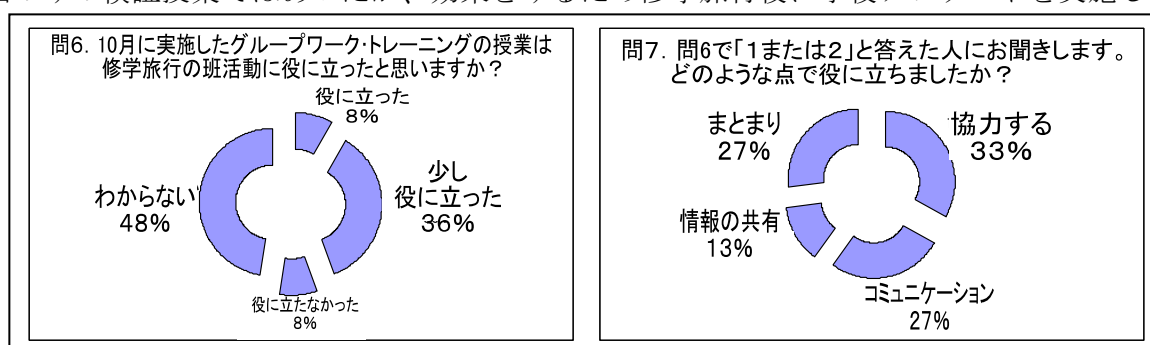


図11 事後アンケートから(一部抜粋)

1回だけのグループワーク・トレーニングだったが、当初予想していた以上に効果があったと思われる。図11の問6では「役に立った」と「少し役に立った」を合わせると44%になり、半数近くの生徒（実数では16人）は効果があったことを認めている。また、問7では効果があったと認めた16人に対して、どのような点で役に立ったかと聞いてみたところ、グループワーク・トレーニングのねらいとするところの「協力」についての回答が一番多い割合であった。

基本的には、グループワーク・トレーニングの効果としては、「協力すること」、「思いやること」、「聞くこと・話すこと」、「気づくこと」、「共通理解を得ること」などが期待されている。中でも、グループでの話し合い活動等の中から協力することにより「気づくこと、お互いを理解すること」が効果として大きいと感じた。そういう意味では、第1回検証授業と第2回検証授業ともに、1回だけの授業ではあったが、少なからず生徒たちには協力することにより、関わり合いを深めて、気づき、お互いを理解することができたと考えられる。

グループワーク・トレーニングを学年始め・終わりや学期の始め・終わり、行事前などに実施することにより、さらに大きな効果が期待できるものと思われる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 研究から見てきたこと

第1回目の検証授業では、ねらいとしていたことは、生徒の活動の様子や「ふりかえりシート」からも、概ね達成されていたように感じる。生徒たちは、活動の中でお互いに協力して課題（題材）を解決することで、情報を正しく聞くことの重要性に気づき、互いに協力することの大切さを知り、友達との関わり合いが深まることを実感できたようである。

第2回目の検証授業では、修学旅行前の生活班での、人間関係作りの一助となることを目的として実施した。各班での「力を合わせることは大切だと気づいた」、「絆が深まった」などの感想が生徒の「ふりかえりシート」でも多く読み取れたことから、話し合い活動はスムーズに行われ、正確に情報を相手に伝え、協力して課題を解決することの大切さを知ることができ、相互理解と自己の存在感を改めて認識していたようだった。

2回にわたる検証授業の実施から、生徒の生き生きとした活動の姿の中に、高等学校の段階でも、他者理解、自己理解の場をもっと設ける必要があると感じた。

## 2 今後の方向性

これまでにグループワーク・トレーニングを含めた参加体験型学習の題材を多く見てきたが、それぞれの活動内容に似た部分があったり、ねらいや効果が重なったりする部分が多くあることに気づいた。今後は、これら多くの題材をさらに分析し、複数の題材を組み合わせたり、グループワーク・トレーニングを基礎にして、グループエンカウンターやプロジェクトアドベンチャーなどと組み合わせたりなど、独自のグループワーク・トレーニングの開発もしていきたいと考えている。また、ふりかえりの重要性から「ふりかえりシート」の再検討・開発も行っていきたいと考える。

2009年3月に改訂された高等学校学習指導要領では、言語活動の充実について明記されている。今後、高等学校においても各教科指導や総合的な学習の時間、そして特別活動等、あらゆる場面において、言語能力を育成していく配慮が必要となってくる。

このグループワーク・トレーニングは、様々な場面で効果がみられることから、今後は活用する時期や生徒の動向によっても使い分ける教師側の配慮が必要となってくると考えられる。また、各教科指導においても、その特性に応じた活用により、生徒が自主的に取り組める授業展開につながられると考える。さらに、生徒の企画・立案により、グループワーク・トレーニングの題材を自分たちの手で作り上げることも考えられる。例えば、仮称「グループワーク係」を組織し、生徒たち自身のアイデアでクラスの交流を深める活動などを作っていくのも一つの方法であると思う。

今後も展開例や学習指導案・題材の改善・改良を行い、学校現場において手軽に実施できる「高等学校編グループワーク・トレーニング集」を作成していきたいと考えている。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申しあげます。

### 【参考文献】

坂野公信	『学校グループワーク・トレーニング』	遊戯社	1989年
	『協力すれば何かが変わる<続・学校GWT>』	遊戯社	1994年
國分康孝	『エンカウンターで学級が変わる 高等学校編』	図書文化	1999年
日本学校GWT研究会	『学校グループワーク・トレーニング3』	遊戯社	2003年
NHK放送文化研究所	『中学生・高校生の生活と意識調査』	NHK出版	2003年
ベネッセ未来教育センター	『モノグラフにみる高校生のすがた』		2005年
ベネッセ教育研究開発センター	『第1回子ども生活実態基本調査報告』		2005年
文部科学省	「学習指導要領等の改善について（答申）」	中央教育審議会	2008年
文部科学省	「高等学校学習指導要領案」		2008年

### 【指導助言者】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長（川崎市総合教育センター専門員）	工藤 文三
川崎市立高等学校 校長会長（川崎市立川崎総合科学高等学校長）	岸 秀治
川崎市立橘高等学校定時制教頭（前川崎市総合教育センター指導主事）	佐藤 栄寿
川崎市総合教育センター指導主事	荒井 利之